

生食用ブドウ主要輸出国の2023年の動向

[EastFruit 2024年9月1日](#)

訳注: この記事は2023年の実績に基づくものであり、他の2024年見通しの記事とは一致しない点があります。

ペルーは生食用ブドウの首位の輸出国としてチリを破り、中国はトップ3に躍り出た

世界で最もブドウを輸出している国はどこか? 輸出を最も速く増減させているのはどの国か? これらの質問は見た目ほど単純ではないため、本誌(EastFruit)はこれらの傾向を調査することにした。

世界最大の輸出国のランキングに入る前に、上位20カ国の中で一部の国が他の国と置き換わるという明確な傾向があることに留意しておくことが重要である。他方、世界のブドウ貿易は現在停滞しており、つまり成長していない。この停滞は、脱グローバリゼーションの傾向や気候変動、すなわち緯度がより高い地域での生産を可能にするブドウ品種の選択の変化によるものである可能性がある。いずれにせよ、世界のブドウ貿易は非常に競争が激しい。

ペルーは現在、生食用ブドウの輸出量が世界で最も多い。この変化は、長年にわたって首位であったチリを2023年に抜いたことで起こった。ペルーの優位性は、生育期間が長く、労働力が安いことにある。平均して、ペルーのブドウ輸出量は年率14.3%に当たる6万6千トン増加し、一方、チリの輸出量は毎年6.6%に当たる4万トン減少している。

国連食糧農業機関(FAO)投資センターのエコノミストであるアンドリー・ヤルマク氏は、「生食用ブドウの世界市場は大きな変革を遂げつつある。多くの国では古いブドウ品種を、急速に変化する消費者の嗜好により適した新しいブドウ品種に置き換えている。さらに、病害虫や気候ストレスに対してより耐性のある品種の供給量が増えている。世界の果実市場が停滞の兆しを見せており、ブルーベリー等の新しい品目との競争の激化に直面しているため、これらの変化は非常に重要である。ちなみに、ペルーはブルーベリーの輸出でも世界をリードしている」と述べている。

中国は2023年に大きな飛躍を遂げ、イタリアと南アフリカをそれぞれ3位と4位の座から追い落とし、2つ順位を上げて生鮮生食用ブドウの輸出国第3位となった。中国は年7.4%に当たる2万8千トン輸出を増やしているが、イタリアの輸出は毎年1万トン減少している。

もう一つの注目すべき傾向は、インドからのブドウ輸出の継続的な成長であり、年10.2%という驚異的な増加を示している。この成長により、インドは2023年末までに世界の輸出国ランキングで8位に上昇し、輸出量を毎年10%減らしている米国に取って代わった。

上位10カ国を締めくくるトルコは、2023年に輸出を大幅に減らし、同国の通常の順位を下回った。全体的に見て、トルコの生食用ブドウ輸出は停滞の兆候を示しており、市場でより効果的に競争するためには、同国は古い品種を置き換え、果実の品質を向上させることが緊急に必要である。

上位20カ国の中で、メキシコはペルーとの競争に苦戦しており、年平均21%の輸出の減少が際立っている。一方、ブラジルのブドウ輸出量は年間10.6%、モルドバは6%増加している。モルドバは世界ランキングで18位に上昇し、2022年にトップ10に入っていたウズベキスタンは2023年には20位に転落した。この急激な減少は、ウズベキスタンや他の中央アジア諸国のブドウ園が大規模な霜の被害を受けた「ブドウの大災害」によるものである。